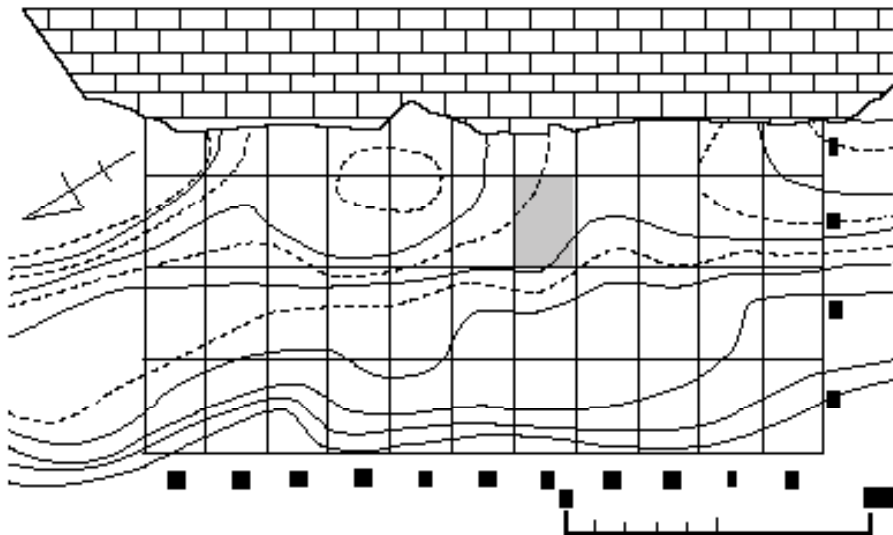




2006年度帝釈峡遺跡群発掘調査 1期（8月2日～10日）

久代東山岩陰遺跡（くしろひがしやまいわかげいせき）

久代東山岩陰遺跡は、広島県庄原市東城町久代字東山に所在し、岡山県との県境まで約1 kmのところの位置しています。遺跡は、東城川の支流である野部川の左岸の、東から南にかけて大きく蛇行する地点にあります。野部川が東城川に合流する東城町河内地区から岡山県境までの間は、狭い溪谷になっていて石灰岩が発達した地域となっています。丘陵部の端部にある長さ約30m・高さ約7mの石灰岩の岩壁の下半部に、西北西に面した長さ約17m・奥行2m・高さ約5mの岩陰が形成されています。現状は、岩陰の上部が崩落しており、岩廂は1mもせり出しておらず、ほぼ垂直に近い状態となっています。岩陰の前面には、東西方向に幅約5mのテラス面が広がっており、ここには遺物包含層を含む堆積層が形成されています。遺跡は1982年の分布調査において発見され、1984年から本調査が開始されました。昨年度は、



久代東山岩陰遺跡の調査区の配置（網掛け部が今年度の調査区）

一昨年の調査に引き続き、遺跡の居住範囲の南限の確認のため、I-2区の調査を行いました。また、遺跡の南北方向の土層堆積状況確認のため、F-2区およびG-2区の調査を行いました。出土した主な遺物は、土器片（弥生土器・土師器）、石器・剥片類、動物骨などです。また、F・Gトレンチからピット状の遺構SP01・SP03および溝状遺構SX02が検出されました。昨年度の調査の成果として、遺跡の南限と遺跡全体の土層堆積状況をほぼ解明できたこと、溝状遺構SX02から弥生土器が出土したこと、J区の堆積状況と堆積の時期が明らかになったことが挙げられます。

今年度の調査目標は、溝状遺構SX02の平面的な検出と、遺跡の岩陰側の南北方向における土層堆積状況を確認するために、F-2・3区を第7層まで掘り下げることです。また、本遺跡は今年度で調査を終了するため調査終了後、遺跡保存のための石垣作りなどの作業を行います。

(真部明子 3年)

コラム1 「帝釈峡の調査を通して得たもの」

私は、今回初めて帝釈協遺跡群の調査に参加しました。最初は、どんな人がいるのか、自分は何をすべきかが分からず、緊張と戸惑いの連続でした。しかし、先生や先輩方と共同生活をしていく中で、皆とも仲良くなり、生活にも慣れ、とても過ごしやすい楽しくなってきました。

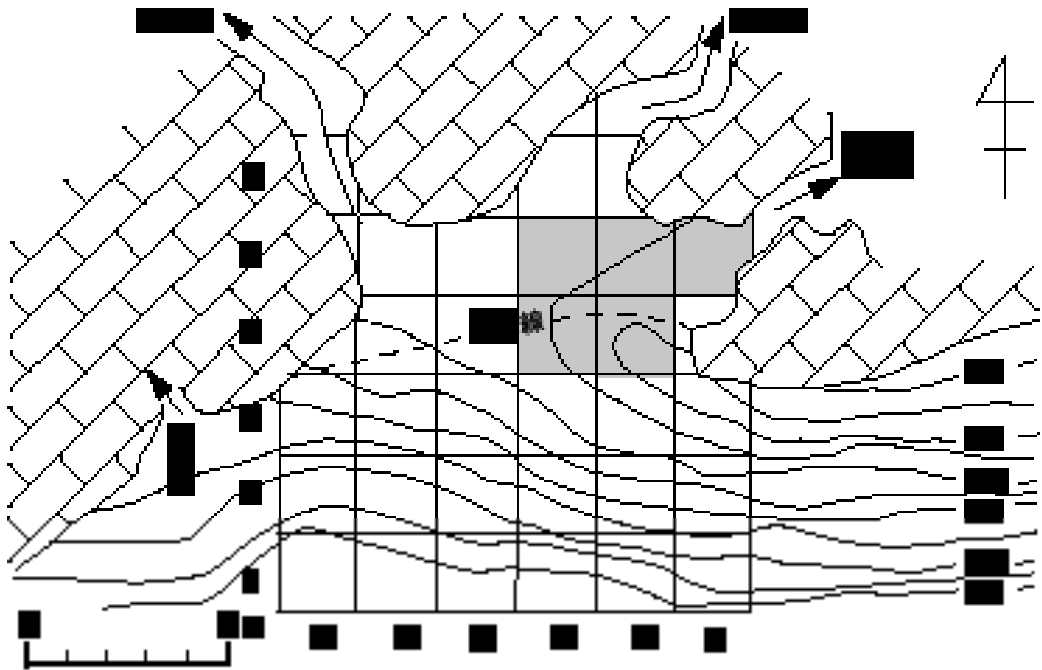
現場でも、先輩方のようになかなか要領の良い仕事ができずに試行錯誤の連続でしたが、しだいに現場にも慣れ、楽しさを感じ、暑さを忘れるほどでした。やはり、「自分がしていることはどんな意味があるのか」を理解しながら作業を行うと、とてもやる気が出ます。また室内作業では、来年度に授業で勉強と思われる剥片の打点のを見つけ方なども学ぶことが出来ました。来年からは、そんなことを考えながら今年の経験を生かしてもっともっと自発的になっていこうと思います。

短い間でしたが、今年の帝釈峡の調査を通して非常に多くのことを学んだので、有意義に過ごすことが出来ました。次回このような機会があるときは万全な準備をして、さらに発展させていきたいと思っています。

(若月美佳 1年)

帝釈大風呂洞窟遺跡（たいしゃくおおぶろどうくつせいせき）

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石町永野宇大風呂に位置します。この遺跡は、1984年の調査によって確認され、1996年から発掘調査を行っています。洞窟は幅約11m、高さ約3m、奥行



帝釈大風呂洞窟遺跡の調査区の配置（網掛け部が今年度の調査）

き約4mです。また洞窟内外に広がるテラスは40m²程あります。洞窟は南に向かって開いているので、入口付近の日当りは良く、また多少の雨ならしのぐことができます。昨年までの調査から、この遺跡は縄文時代前期（約5000～6000年前）から古代・中世まで断続的に使用されていたことがわかりました。古代・中世の層からは土鍋や皿、鉄釘、鉄鎌、火打金、銅銭、縄文時代の層からは土器や石の矢じり、魚を採る網につける石のおもり、貝製の腕輪などが出土しています。また縄文時代より昔の層からは現在日本には生息していないレミングの一種や絶滅種のネズミの仲間の骨が出土しました。

昨年の調査では遺跡東半部の中世における利用状況をほぼ明らかにしました。第11次となる今年の調査ではD-4・5区、E-4・5区、F-5区を調査区域として、昨年にD-4区北側で見つかった焼土の精密な調査、E-4・5区の土器片群の取り上げなどをし、全調査区域で第4層（縄文時代早期～前期）上面まで掘り下げ、当遺跡の縄文時代における利用状況を明らかにすることを最終的な目標として調査を進めています。発掘調査のない日は宿舎で遺物の整理などを行います。今期は久代東山岩陰遺跡出土の石器や帝釈観音堂洞窟遺跡出土の土器の整理を行っています。これにより当遺跡との関連性について明らかにしていきたいと思っています。

（河戸祥陽 3年）

コラム2 「準備作業」

今回僕は初めて発掘調査というものに参加しました。とりあえず3期間に分けられた最初の第一期ということもあり、まず発掘を行うにあたってしなければならぬさまざまな準備を行いました。最初の仕事は、大風呂洞窟遺跡が山の上にあるので登るための階段作りでした。山に作られた階段は非常に滑りやすく危険であるので、できるだけ安全になるように務めました。けっこうな肉体労働でしたが、体を動かすことが好きなので個人的には非常に楽しい作業でした。その後階段作りが一段落すると、水洗作業という、土の中に混じっている遺物を発見するための装置であるパイプをつなぎました。8月上旬だというのに川の水は冷たく、また河の流れや岩の配置などに苦労させられました。全体的に大変な作業が多かったのですが、これから1ヶ月間にわたる発掘作業の役にたっていると思うとうれしかったです。

(森賀康太 2年)

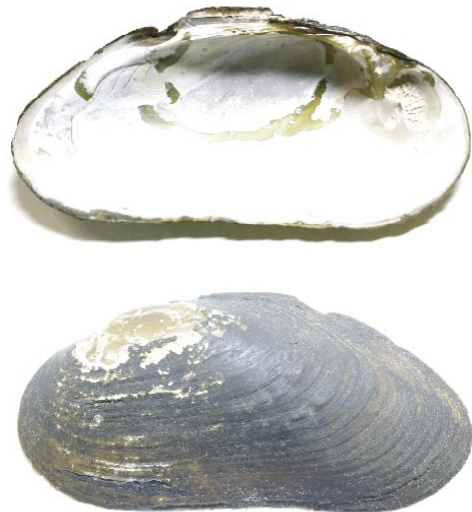
帝釈峡遺跡群の遺物あれこれ

今号では、帝釈峡遺跡群から出土する貝製品を紹介します。帝釈観音堂洞窟遺跡では、カワシンジュガイと呼ばれる貝の破片が、縄文時代草創期からの早期までの各層で見られます。カワシンジュガイとは、氷河時代から残っている淡水陸産の貝類で、いまのところ貝類捕食の最古の資料です。帝釈馬渡遺跡でも大形のカワシンジュガイが大量に出土していて、観音堂とのどちらの遺跡でも最古の土器と一緒に出てきました。このことから、

帝釈峡の最古の土器は、カワシンジュガイを煮て食べるためにつくられるようになったとも考えられています。また、カワシンジュガイの貝殻の内側は美しい光沢があり、見る角度により様々な色に変化します。貝殻に孔があげられている資料もあることから、きっと縄文時代の人々はこの美しさに惹かれ、装身具として身につけていたのではないのでしょうか。

帝釈峡の各遺跡で見られる大量のカワシンジュガイの破片は、食べたり、殻を装身具にしたりと、この貝が縄文人たちにとってとても身近であったということを物語っています。しかし現在では、このカワシンジュガイは天然記念物に指定されています。

(中川志保美 1年)



人物往来

(8月2日～4日)

広島大学文学部学生 山手貴生 (4年生)

(8月4日～10日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生 石丸恵利子 (D5生)

(8月7日)

庄原市教育委員会主催子供考古学探検隊の皆さん 16名

(8月7日～8日)

広島大学理学部地球惑星システム学科 狩野彰宏先生 堀真子 (D1)、福村香子 (M1)、
武内翔 (4年)

(8月9日)

油木公民館「夏休み体験教室」の皆さん 13名

参加者名簿 (1期8月2日～10日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

” 助教授 野島永

” 大学院生 荒平悠、岩崎佳奈、下元優、竹村崇、谷岡能史、
前田剛伸

(以上M1生)

広島大学文学部学生 河戸祥陽、中川志保美、真部明子、吉武幹雄 (以上3年生)

森賀康太 (2年生)

若月美佳 (1年生)

東海大学文学部歴史学科考古学専攻 迫田苑子 (3年生)

陣中見舞い

石丸さん ビール 鈴木クリニック ビール

上倉さん お菓子 山手君 花火

狩野先生 ビール 弥生食堂藤井さん 野菜

本年度は8月2日～10日、17日～24日、26日～8月31日までの3期間、東山・大風呂の
両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に遺跡まで見学に来てください。遺跡の見学には、
山登りおよび川を渡る服装でおこし下さい。ありがとうございました。

(編集 荒平悠 M1)

